47 * 1 * 5

大阪大学図書館報

『夢ふる夜に〜Twitterで 綴る140字の文学〜』 柳川 朔 [著] ウェルテ, 2013 ISBN: 978-4904057025



阪大生が本を出版!

記念トークイベント開催 <u>P.1-3</u>

図書館でアカデミック・スキルの向上 P.4-5

グローバル・コモンズ

P.6

目次

利用者アンケート調査報告書公開 P.7

国立情報学研究所実務研修報告 P.10-11

総合図書館の耐震改修工事

P.12

NEWS 図書館からのお知らせ

P.13-16

阪大生が本を出版! 記念トークイベント開催 『夢ふる夜に~Twitterで綴る140字の文学~』

2013年6月21日、『夢ふる夜に~Twitterで綴る140字の文学~』の出版を記念し、総合図書館グローバル・コモンズにて、作者の柳川朔(やながわさく)さん(文学部2回生)による著者トークを、附属図書館とショセキカプロジェクトとの共催で行いました。

イベントの流れとしては、柳川さんのトークに続いて来場者との質疑応答があり、最後にショセキカプロジェクトの梅木遼さん(文学部2回生)から同プロジェクトの活動紹介がありました。

トークでは、柳川さんの生い立ち等、自身のことについてのほか、Twitterで始めた経緯や出版時の想い、表紙のイラストに込められた意味などを語っていただきました。また、著書の中からいくつか作品を取り上げ、「何を思って書いたか」「何を見てひらめいたか」ということについてのお話があり、最後に阪大生へのメッセージも頂きました。時折冗談を交えたりと、トーク全体は楽しい雰囲気で展開し、柳川さんの人柄がよく表れたイベントとなりました。

当初は20名程の来場者を見込んでいましたが、ふたを開けてみると、来場者数は約40名にものぼり、柳川さんのご友人やファンの方をはじめ、学内だけでなく、学外の方も多くお越しいただきました。



トークイベントの様子。満席の会場。柳川 さんの明るいトークに、来場者からも思わ ず笑顔が。

Twitterで発表してきた作品たちを1冊の本として羽ばたかせるべく、ご自身で出版社に掛けあった柳川さん。出版社とのやり取りや宣伝活動など初めてのことに苦戦しながらも、いつしかご友人やショセキカの皆さんからのバックアップを得るようになり「周りの人の支えがあってこそ」と実感したとのこと。周囲を巻き込む彼の行動力からは、初めの一歩がもつ大きな可能性を教えられます。

これからも図書館は学生の皆さんの 様々な活動を支援していきます。充実した 学生生活のツールとして、ぜひ図書館をご 活用ください。

吹田地区図書館サービス課 六車彩都子学術情報整備室 小松涼子

トーク内容の紹介

◆本について

ハタチの日々において考えたことを140字ちょうどという形で表現した、俳句や短歌よりは長く小説よりは短い、いわば「新しい定型文学」。

作品のほとんどは夜につくられたもの。タイトルには、読む人、そして書くきっかけをくれた人に素敵な夢がふりますようにという願いを込めた。

◆Twitterで始めた経緯

2012年3月、Twitter開始。当初はいまいち使いこなせず。

たまたま記した140字。どこかで或る人が読んでくれたらと思いのたけを表現。 いつしか毎日のように書くようになり、日 課から"生きがい"に変わる。

◆出版までのみちのり

10月、書き溜めた作品を携え、東京の出版社を電撃訪問。企画の賛同を得る。 2013年3月、再び訪問。デザイン、装 丁、販売経路などについて具体的な話し合い。すべてをひとりで行うことに苦労。 GW明け、ショセキカのバックアップを得る。

◆カバーデザインについて

3月、吉田奈波さん(文学部2回生)に依頼。当時はまだタイトルも決まっていなかった。夜を思わせる紺色のイメージを伝え、吉田さんからは目立たせる黄色の提案。ここから二人で作り上げた。

◆出版を通して

「やっとか」という気持ち。書きはじめてからちょうど1年後に出版となる。多くの人たちの尽力に感謝。

◆展望

著名人にこの本を送りたい。 皆さんもぜひ140字の文学を。心を素直 に綴ることで、きっと日々が少しだけ色を つけるはず。

先日小説を書きあげた。ゆくゆくは戯曲や映画の脚本、音楽雑誌の記事もやってみたい。

その①

作品紹介

チョロQ

チョロQは一度後ろに下がってから一気に加速し、進む。

そりゃ人生もずっとトップスピードで行けるに越したことはない。

でも一度後退することがあってもそれはきっと猛スピードで発車する予兆。

予兆に気づかずスリップする か発車するかは自分で決めら れる。

人生は等速直線運動じゃない。

(『夢ふる夜に』 p.130より)

ショセキカプロジェクトの お二人からのコメント

松行輝昌先生(学際融合教育研究センター)

柳川朔さんの処女詩集『夢ふる夜に~Twitterで綴る140字の文学~』刊行を記念して開催されたイベントは、いろいろな意味で画期的でした。まず、文学部2回生が自身の才能と行動力で詩集を出版したこと。柳川さんの周りにいる阪大生が手厚いサポートをしたこと;吉田奈波さんが印象的なカバーをデザインし、ショセキカプロジェクトメンバーがトークイベントの企画運営を行いました。第2回阪大SpeakOut(5月19日開催)では、特別に柳川さんの紹介をする時間が設けられました。

大阪大学の学生は能力が高く、卒業生の多くが社会で活躍しています。しかし、阪大 OBではない私はいつも「阪大生の実力はこんなもんじゃない。もっともっと活躍できる!」と思っています。阪大生が潜在能力をフルに開花させるのに必要なのはキャンパスのワクワク感です。大学に来ると何かクリエイティブでexcitingなことが起きている感じが出てくればこの大学は変わります。今回の柳川さんと阪大生の協働は、阪大が変わりつあることを十分に予感させるもので大変うれしく思いました。

梅木遼さん(文学部2回生)

2013年6月20日に『夢ふる夜に~Twitterで綴る140字の文学~』を出版した柳川 朔君のトークイベントを6月21日に行いました。Twitterの字数制限である140字ぴったりで日々に感じたことを綴っていく本著はどのようにして生まれたのか? 出版に至るまでにどのようなことがあったのか? について軽快な語り口で語っていただきました。学業の傍で出版を行った柳川くんの話は大変刺激的で、参加していただいた方々も多くを感じていたように思えます。

今回このイベントを企画した私の所属する「ショセキカプロジェクト」では学生が本の企画から制作・出版・販売までを手がけつつ、12月の出版に向け奔走しております。出版予定の本は『ドーナツを穴だけ残して食べる方法~大阪大学ドーナツ論叢』という本で、この一見矛盾した議題に対して阪大の教員が工学や美学、精神医学など様々な切り口より考えていきます。また紀伊國屋書店のHP上にて「阪大生は書くことにした」という阪大生の書評を掲載するページを近日開設予定です。今後も活発に活動していきますので「ショセキカ」に注目よろしくお願いします。

本誌掲載にあたり、著者の柳川さんから メッセージをいただきました



『夢ふる夜に~Twitterで綴る140字の文学~』の出版に際し、図書館でトークイベントをさせていただきました文学部演劇学2回生の柳川朔です。

日々の思索を140字ちょうどで表してきたものがひとつの形になりました。何かをはじめることの勇気、それを続ける覚悟、そしてそれを支えてくれる人たちへの感謝。実に多くのことをこの出版で学ぶことができました。

出版社から自分の本の見本が送られてきたのを目にしたこと、はじめて一冊売れたときのこと、読んでくださった方からいただいたコメント、それらのすべてが心に色を添えてくれました。

さて、実はこのイベントで、図書館の 方から最後に「何かをしたいけれどでき ずにいる阪大生にメッセージを。」とリ クエストがありました。

僕は有名人でもなければ、何かを成し遂げたわけでもないので偉そうなことは何一つ言えませんが、プロ野球を目指し本気で野球に打ち込んでいた経験からお話しさせていただきました。

きっと誰しもが自分のしていることに 100%の自信なんてないはずで、周りの 目を気にしたり、自身の中からストッ パーがかかったりしてなかなか前に進め ないこともあるはずです。

野球はホーム(家)を飛び出して、フィールドを一周してまたホームで安全(セーフ)になってはじめて点の入るスポーツです。きっと人生がフィールドであるならば、21歳の今はきっとまだ一塁を蹴ったあたり。誰しも一塁までは何も考えずがむしゃらに走ります。でも一塁を蹴ってフィールド全体が見えてくると、本当にホームに帰れるのか不安に駆られます。それでも今まで自分が進んできた道こそ正解と信じて、二塁を目指す人にしか得点の可能性はありません。走るのをやめては点なんて入りません。

そうは言っても現実にはそれを行う チャンスがない、どこかで誰かが言うは ずですし、僕もしばしばそう思います。 そりゃ、チャンスで打席が巡ってきてタ イムリーヒットを打つにこしたことはあ りません。でもたとえ自分の打席の際、 ランナーがいなくてチャンスでなくても、ホームランを打てば点は入ります。今の自分にホームランが打てないのなら、チャンスのなさを嘆く前に、打てるように地道な素振りをするべきです。そして打てる力があると感じているのなら、すぐに打席に立つべきです。

そして打席に立つことを夢見て誰もが練習してきたのにいつしかそこは立って当たり前の場所になってしまっています。そんなバッターの頭にそれまでの努力や、それを支えてくれた人への感謝はなくて。だから思うような結果につながらず、たとえまぐれでヒットが出ても長続きはしません。

「今、打席に立っているのなら、その喜びだけは忘れてはいけない。」 高校の監督に言われ、当時意味のわからなかったことがやっとわかりました。

そしてきっとこれからの人生で、見たこともないような豪速球を放ってまるです。るるではず立たない打席もあるでしまったの振らずになが立たない打席が立まなが立たながながないでであるは様に見いているはいかがないではいるは、ではいいではないではないではないであると、一つのははいいません。そのではなりません。そのではなりません。できました。アウトにはなりません。

きっと人生で成功する権利があるのなら、失敗する権利もあるはずで。5打数 ノーヒットが続く試合があって、ベンチに退く日が来ても、誠意を持って練習に 取り組む姿は必ず誰かが見てくれている はずです。いつ来るかはわからないチャンスでもそれを掴めばヒーローです。そ の日のために泥だらけになるのも悪くはないのかなと思います。

どんな活動でも誠意を持って行うことが自分自身に対する誠意でもあるのだとこの年になってようやく気づかされました。こうしてトークイベントに関わってくださった多くの方々のおかげだと実感しています。

作品紹介その②

愛のレシピ

強火で炒めた恋よりも弱火で 煮込んだ愛がいい。

募る想いをコトコトと味染みるまで火にあてて、ほんの少しの哀しさをスパイス代わりにふりかけて。

時には冷めてしまうけどレン ジでチンして温めてかき混ぜ たなら元通り。

色んな想いが溶けあって優し いコクが生まれたら、勇気を 加えできあがり。

> (『夢ふる夜に』 p.245より)

図書館でアカデミック・スキルの向上!

アカデミック・スキルってなに?

アカデミック・スキルとは、何らかのテーマに対し、情報を収集・評価・調査し、 思考を組み立て、それらを発表またはディスカッションする能力を指します。大学と いう場では、レポートや論文の作成、ゼミ等での発表に必要な技術・能力です。

分野に関わらず必要とされるこのスキルを習得してもらうために、図書館が取り組んでいることをいくつかご紹介します。

講習参加者の声

私が「プレゼン入門:話す基本技術」を受講した理由に、人前で発表する経験が少ないと感じていたことがあります。その少ない経験もほとんどが原稿を読み上げる形式だったため、別の方法を知りたいと思い受講しました。

受講してよかったのは、論 理的に話すことを意識できた ことです。それまでは内容ば かりを意識しがちでしたが、 話す時の「型」も非常に重要 なのだと気づきました。ス ピーチの実習ではビデオ撮影 やフィードバックもありまし た。そして、他の受講生のス ピーチを聞くことにより、自 分の話し方を改善していく きっかけになりました(自分 の映像を見るのはとても恥ず かしかったですが)。発展編 の内容「司会の要素」も、議 論の中での司会の役割を学ぶ 機会が少なかっただけに勉強 になりました。

私が受講したのは4回生の 後半ですが、興味を持たれた らぜひ早めの時期に。お勧め します。

2013年3月文学部卒 野村明日香さん



講習会 ガイダンス

皆さんのアカデミック・スキル向上のため様々な講習会・ガイダンスを開催しています。論文作成や、 それを発表する技術まで学習できます。

図書館ガイダンス (論文の探し方)



講習会の様子(箕面キャンパス)

ゼミごとの論文検索ガイダンスも!

「論文検索ガイダンス」

どうやって論文を探し、どうやってその論文を手に 入れるのか?

阪大にあるものの探し方、阪大にないものの取り寄せ方などなど……先生からのご希望に応じ、ゼミ単位でガイダンスを実施しています。例えば中国語のゼミに対しては、中国関係のデータベースの説明も行っています。

※外国学図書館職員によるガイダンスです。 個人でのお申込みも可能です。

発表する技術、プレゼンカを 高めたい方にはこちら!

「プレゼン入門:話す基本技術」

自分の考えを自分の言葉で、人前でロジカルに 話すための入門講習会です。全学教育推進機構 と共催で実施しています。

パラグラフ構成、つなぎの言葉や声、そして、 アイコンタクトといった話す方法を中心として、実践的に技術を習得できるように構成しています。

実践内容は1分間スピーチ・ビデオ撮影・司会の体験など盛りだくさん!

参加者アンケートより

「1回目から4回目まで自分の変化に気付き、本当にうれしかった」(文・M2)「内容や目的が明確で、"今日これだけ身に付けられた"という実感を得られた」(人・M1)「人前で話すのは苦手だったが、その苦手意識が少し払拭された気がする」(理・B2)



講習会の様子(総合図書館)

これらの講習会やガイダンスは今後も開催予定です。

カウンターで!

カウンターでいつでも相談できます

論文やレポートを書いていて困ったとき、講習会がタイ ミングよく開催されているとは限りません。



そんなときはカウンターへ! 「引用文献はどうやって書いたらいい の?」「こんなときはどんな論文を読むべき?」など、なんでもお気軽 にご相談ください。各図書館のカウンターでは、いつでも必要なときに ご対応いたします!

TAL!

図書館ティーチング・アシスタント(TA)も活躍

図書館では、図書館職員だけではなく、大学院生の TAも皆さんを支援しています。

皆さんの専攻ならではのご相談にお答えします。 レポート・論文の書き方、授業で出された課題など 皆さんが今つまずいているところを、同じような経 験をしてきた先輩に尋ねてみましょう。

先生方には質問しづらいことでも、TAが優しくお 教えします。

※TAは総合・理工学・外国学の各図書館で対応しています。

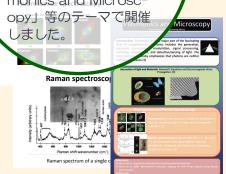


TA講習会の様子(理工学図書館)

TAによる講習会

TAが講師となって開催 している講習会は、研究 に必要な知識等がたくさ ん詰まっています。 2012年度は、「Plas-

monics and Microsc-





Pasta

TAが専門を活かし、各テー マの学習に役立つ資料や ツールなどを紹介。研究に 必要な情報、論文等資料の 収集方法を解説していま す。皆さんの学習や研究に ご利用ください。各館で無 料配布しており、図書館 Webサイトからダウンロー ドもできます。

そのほか様々な講習会・ガイダンスを随時開催!

○レポートの書き方講座

○論文の書き方/文献の読み方プチゼミナール

○主題検索を軸としたデータベース検索方法

○生命科学図書館の使い方:研究と文献検索

○はじめての論文

一知ろう、探そう、手に入れよう! OPractical literature search tools

○フィールドワーク超入門講座 など

附属図書館では、関係の先生方や全学教育推進機構などの関連部署と協力して、 学生の皆さんに必要な講習会やガイダンスを開催したいと考えています。

関連図書紹介



『エンジニアのための 英語プレゼンテーション 超克服テキキスト』 平井 通宏 [著] オーム社,2007 ISBN: 978-4274203633

日本語で発表する人にもオス スメ。第Ⅰ部では、英語に限 らない全般的なこと、ロジカ ルな構成、準備や本番の際に 考慮すべきことを解説。第Ⅱ 部では、便利な英語表現が多 数書かれており、英語で発表 する人には、とても便利であ る。

これをしっかり読み込んで、 練習すれば、相当上達するは ず。



中澤務,森貴史,本村康哲 [編] くろしお出版, 2007

ISBN: 978-4874243725

アカデミック・スキルズの基 本が学べる。思考の整理法で あるマインドマップやブレイ ンストーミング、KJ法の基本 も解説している。

各章の構成は以下の通り。

1) ノートの取り方 2) 情報の 集め方 3)読み方 4)ライティ ング 5) プレゼン、スピーチ 6) ディスカッション、司会の 役割 7) ディベート。

学生の声

グローバル・コモンズを利 用した際のよかった点は大き く分けて3つあります。

1つ目は、オープンさです。 グローバル・コモンズは開放 的なので、飛び入り参加、途中 参加、退席を認めるなどの対 応を行えます。このオープン さによってより多くの方に参 加していただけました。

2つ目は、多様性です。 グローバル・コモンズは多様 な学生に認知および利用され ているので、多様な学生が参 加してくれました。実際に大 学院生、留学生の方に参加し ていただくことができまし た。

3つ目は、会場のフラット感 です

プレゼンテーションを行う場では大抵発表者と観客の目線の位置が違います。そして、その目線の位置の違いは立場の違いを強調します。

ですが、グローバル・コモンズはフラットです。なので、観客である学生は自分と同じ一学生が発表しているのだと意識しやすく、会場が一体となりやすかったです。

以上3つのことが、グローバル・コモンズを利用した際のよかった点です。

基礎工学部2回生 (阪大SpeakOut主催者) 草野仁志さん



グローバル・コモンズ ~新しい交流の場として~

グローバル・コモンズは、多言語・異文化理解をキーワードに、2012年11月、総合図書館に開設された共同学習スペース。その後、様々なセミナーや授業で利用され、1か月平均、3回以上もご利用いただいています(2013年7月末時点)。

そんな新しい交流の場へ展開を見せるグローバル・コモンズの様子をご紹介します。

阪大 SpeakOut 予選会



2013年2月に本学1回生が主催。

自分の思いや夢を語るイベント「阪大 SpeakOut」。 その予選会場になりました。

ビブリオバトル



本学公認学生団体「サイエンスルー」 が実施するビブリオバトル。 ビブリオバトルは単に本を紹介するイベントではなく、本を通して人を知る という面もあります。

日蘭学生会議 春期英語会

グローニンゲン大学への短期研修を経験 した本学学生が母体となって設立された 日蘭学生会議。英語での討論やプレゼン テーションを行う「春期英語会」。春休 みの3日間、熱い議論が行われました。



2013年度前期、国際交流科目「ロボットと社会」、全学共通教育科目「多文化コミュニケーション」で計4回、グループ討議にご利用いただきました。担当は宮原啓造准教授(国際教育交流センター)。



授業でも

【ラーニング・コモンズのイベント利用】

総合図書館ラーニング・コモンズは、グローバル・コモンズと同様にご利用いただけます。教職員による授業や研修会だけでなく、学生の皆さんによるセミナーや研究会(学内に公開されるもの)も可能です。

ご利用の際は、事前に日時・人数・用途・希望ゾーンをご相談ください。

(*) 担当:総合図書館 サービス企画主担当 servkikaku01@library.osaka-u.ac.jp

【耐震改修に伴うグローバル・コモンズの一時閉鎖】

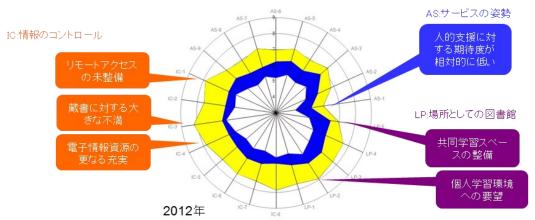
残念ながら、グローバル・コモンズは耐震改修のため一時閉鎖させていただきます。11月半ばから2014年6月頃を予定しています。詳細は図書館Webサイト、ポスター等でお知らせいたします。

平成24年度附属図書館利用者アンケート調査報告書を公開しました

皆さまにご協力いただいた利用者アンケート調査の報告書は、附属図書館Web サイト(http://www.library.osaka-u.ac.jp/enquete.php)で公開しています。前号では「アンケート調査実施報告(中間報告)」と題し平成24年度実施調査の集計結果の概要を掲載しましたので、今号ではそのアンケート調査結果への対応として、アンケートで寄せられた意見に対する回答を、公開している報告書から抜粋し概要報告します。

なお、ここで紹介するのは回答の一部となりますので、詳細については報告書を ご覧ください。

集計結果の概要(再掲)



リモートアクセスの未整備

(B. 電子資料の充実と利便性から抜粋……p.31)

■電子資料への学外からのアクセスを、学内でのアクセスと同じレベルにしてほしい。

電子資料のキャンパス外からのアクセスについては、その製品の提供条件や契約によりそれぞれ異なります。キャンパス外からでも大学内で利用する場合と同じ条件となるものから、大学外では一切アクセスを許可しない条件のものまであります。

大学外で利用できる条件のものについては、大阪大学個人IDによる認証を経ることによってアクセスできます。図書館のWebサイトからも入口を設けています*1。平成23年度にはこのシステムをさらに安定的なものに更新し、また、国立情報学研究所が提供する「学認」(学術認証フェデレーションGakuNin)の導入を行いました。今年度*2は、ディスカバリー・サービス「まとめて検索」の提供を開始しました。これらにより、大学構成員であれば、自宅からでも、学会等出張先からでもより便利にアクセスできるようになりました。今後もより利便性を上げるように努めていきます。

- ※1 p.8-9のコラムにて、キャンパス外からのアクセス方法をご紹介していますので、ご覧ください。
- ※2 今年度=平成24年度



これまで附属図書館が実施した主な利用者アンケート

平成15年度 本館利用者アンケート (回答数813件) 2003年7月 ※現在の総合図書館で実施

平成16年度 全学利用者アンケート (回答数1,753件) 2004年11月 ※法人化初年度の実施

平成19年度 全学利用者アンケート (回答数2,711件) 2007年11月 ※初めて「利用者による評価」 を主体とする形式で実施

平成20年度 利用者アンケート調査 (回答数2,433件) 2008年11月 ※第1回LibQUAL+®の実施

平成22年度 利用者アンケート調査 (回答数955件) 2010年10月 ※第2回LibQUAL+®の実施

平成24年度 利用者アンケート調査 (回答数1,096件) 2012年11月 ※第3回LibQUAL+®の実施

キャンパス外から 電子ジャーナルを つかう

①附属図書館のトップページ左上「クイックサーチ」のうち、「電子ジャーナル」にて、タイトルかISSNで検索。

大阪大学附属図書館



②検索結果から該当の雑誌タイトルを選択すると、下記のようなページに移ります。 そこから年・巻・号・ページを入力 (わからない場合は空欄でも可)

して、GOをクリックします。

③そうすると、学外から利用可能な場合は、大阪大学個人IDの認証画面が出ますので、ログインすればキャンパス内と同じように電子ジャーナルを利用できます。



認証画面が出ない場合は、残念ながら契約上キャンパス外から利用することが禁止されています。 お手数ですが学内のネットワーク よりご利用ください。 最近では多くのタイトルがキャンパス外から利用可能になっていま

すので、ぜひご利用ください。

蔵書に対する大きな不満

(A. 資料の充実(図書・雑誌)から抜粋·····p.28)

■各図書館の専門書籍や学術雑誌を充実してほしい。特に原書や、最新の出版物の 補充に不足を感じる。また、最新の注目分野の蔵書も少なく、分野のかたよりも 大きい。必要としている資料がない。

現在各図書館の蔵書は、図書館の予算による学生向けの学習用資料と、各部局研究室の予算で購入する研究用資料のうちで図書館置きとされた資料からなっています。研究室予算分の選書については各研究室で独自に行われていますが、図書館予算分については、図書館職員による選書と共に、教員による学生用資料推薦と学生・院生からのリクエストにより選定された資料からなっています。さらに、外国学図書館では、平成21年度より毎年、各専攻語教員の協力を得て現地語資料の収集を行い、現地語の新しい資料の収集に努めています。今後もご指摘のあった事項に注意しながら、蔵書の充実に努めます。

また、必要な資料が学内の図書館に無い場合は、学外からの資料の取寄せサービス(ILLサービス)や図書購入のリクエスト制度、学生選書企画もご利用ください。

電子情報資源の更なる充実

(B. 電子資料の充実と利便性から抜粋……p.30)

■電子ジャーナルは、とにかくタイトルを増やしてほしい。できれば網羅的に揃えてほしい。データベースや電子図書についても充実してほしい。

図書館では全学的に整備すべき電子ジャーナルやデータベース等の電子資料を、「電子的情報基盤整備経費」として、毎年学内の共通経費予算の確保につとめています。その結果、電子的情報基盤を維持するために必要な年間費用約4億6千万円のうちの3億円の予算措置を受けています。足らない分については、各部局の負担をお願いしています。(このような経費の充当と部局の負担割合については、平成19年度の図書館委員会で合意されたものです。)

このように電子資料は非常に高額であり、大学の共通経費や各部局の拠出経費による ものであるため、選定も厳しく行われています。年に一度、各部局から資料の推薦を頂 き、それを基に、新規に導入する、又は購読を中止するものを電子図書館委員会で選定 いたします。それをさらに図書館委員会に諮り次年度に全学提供する電子資料を決めて います。毎年、重要性・必要性・共通性・利用実績の観点から厳正に審議されていま す。



人的支援に対する期待度が相対的に低い (F. 利用支援サービスから抜粋……p.38)

■サービス内容や設備の使い方など全般的に説明不足。説明会をしてほしい。

図書館では、毎年4月にオリエンテーションを行っています。新入生でなくても、参 加できますので、是非ご利用ください。また、4月に限らずオリエンテーションはいつ でもご要望に応じて1人からでも行いますのでカウンターにご相談ください。その場 合、各種サービスや機材の使い方などご希望に特化して行うこともできます。

なお、サービス内容は図書館Webサイトでも案内していますので、ご参照くださ い。また、ラーニング・コモンズやパソコンコーナー等、新しい機材が増えた場所に は、わかりやすく案内をしていくようにいたします。ご指摘ありがとうございます。

共同学習スペースの整備 / 個人学習環境への要望 (C. 図書館施設の利用から抜粋……p.33)

- ■学生の数に比べ、座席数が圧倒的に少ない。特に総合図書館の混雑はひどい。
- ■グローバル・コモンズ等ができることは結構だが、個人で学習するスペースに ついても増やしてほしい。
- ■グループ学習室やラーニング・コモンズのような場所をすべての図書館で もっと増やしてほしい。

利用者の皆さまからは、このように異なる声を共に多数いただきました。図書館で は、従来からの個人学習スペースをさらに充実させることと共に、教育スタイル・学習 スタイルの大きな変化に対応するために、対話型のグループ学習スペースの拡充も喫緊 の課題と捉えています。現状では、双方とも十分でないため、このようなご意見をいた だいたと理解しています。個人学習・グループ学習ともに充足していれば、館内のス ペース設定は双方必要なものと受容していただけると考えていますので、資料の効率よ い収納の改善をし、学習の場を確保できるよう努力いたします。

報告書では利用者アンケート調査の設問への回答および自由記述から、今後図書 館が、速やかに対応を検討し実施していくべき課題を整理し掲載しています。

前回・前々回のアンケート調査に比べ、ここまで図書館が実施してきたサービス を評価するコメントも多くあったことが今回の特徴でした。指摘を受けた点を改善 するとともに、評価を得られた点については、サービスを維持し、さらに向上させ ることも課題としていきます。

今後とも皆さまのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

キャンパス外から データベースを つかう

①附属図書館のトップページ中央 の下記のアイコン「キャンパス外 から電子リソースを使う」をク リックします。



キャンパス外から 電子リソースを使う

②キャンパス外から利用可能なの は、「データベースへのアクセス」 欄にリストアップされているもの です。利用したいデータベースを クリックします。

データベースへのアクセス

以下のリンクから大阪大学個人IDによる認証を経てア クセスすることができます。

- ACM Digital Library
- CiNii Articles Cochrane Library Cross Cultural

③そうすると、大阪大学個人IDの 認証画面が出ますので、ログイン すればキャンパス内と同じように データベースを利用できます。

大阪大学 全学 IT 認証基盤サービス

全学 IT 認証基盤サービスでログインします

大阪大学個人ID(Personal ID):

パスワード(Password): ログイン後、パスワード・メールアドレス等の変更を行う



大阪大学構成員向けの学術認証 フェデレーション(GakuNin)で提 供されているサービス利用に関す る情報提供ホームページ http://gkweb.auth.osakau.ac.ip/

国立情報学研究所実務研修報告 ~ERDB(電子リソース管理データベース)について~

学術情報整備室 学術情報収集班

塩出 郁

実務研修の記録

実務研修中は国内外のいろいろいろな場所へ行かせていただき、大学にいてはなかなかできない貴重な経験をさせていただきました。



東京大学 附属図書館





大英図書館



はじめに

2012年8月から2013年3月までの8か月間、東京にある国立情報学研究所(以下、NII)において実務研修を受講しました。この研修はNIIにおける実務を経験し、様々な知識と技術を修得することを目標とするものです。研修の中で電子ジャーナルについての新しいプロジェクトに関わらせていただいたので、ご報告します。

1.NII実務研修

NIIは情報学分野における我が国唯一の学術総合研究所として情報関連分野の研究を行うとともに、大学などの学術機関の研究・教育活動にとって不可欠なネットワークを構築し、様々なサービス事業を展開しています。さらに大学図書館の人材育成にも力を入れていて、図書館員向けの講習会や研修を実施しています。その一つとして、国立情報学研究所実務研修があります。

実務研修の期間や内容は研修生と所属機関、NIIで調整のうえ、自由に設定することができます。私は研修期間が長期にわたるため、学術基盤推進部学術コンテンツ課と大学図書館コンソーシアム連合(以下、JUSTICE)事務局の両方で研修を受講し、電子ジャーナル関連の業務に携わることになりました。JUSTICE事務局における実務研修については、『大阪大学図書館報』46巻1号(2012年)に詳しく載っていますので、そちらもご覧ください。

2.電子ジャーナル

電子ジャーナルとは、インターネット上で提供されている雑誌のことです。電子ブック、データベース等とあわせて電子資料と総称されます。紙媒体の雑誌と比較すると、出版後すぐに読むことができる、複数の人が同時に利用できる、全文検索機能やリンク機能を活用できる、動画や音声を含む記事を扱うことができる等の優れた特徴があります。さらに一部の電子ジャーナルは、大学外からでも利用することができます。

電子ジャーナルはその購入方法も多様です。紙媒体の雑誌は通常1タイトルごとに 購入しますが、電子ジャーナルはある出版 社が発行しているタイトルをまとめて購入 したり、分野ごとに複数のタイトルをパッ ケージとして購入したりすることができま す。また、読みたい記事を1本単位で購入 することもできます。

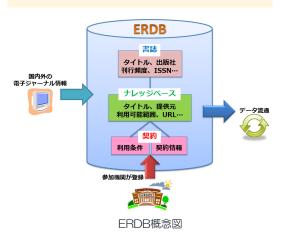
その一方、電子ジャーナルは価格設定がとても複雑です。紙媒体の雑誌は1冊の単価や年間購読額が固定されていてどの大学でも同じですが、電子ジャーナルは大学の規模や構成によって価格が異なるうえに、ほとんどのタイトルが毎年数%ずつ値上がりします。

このような電子ジャーナルを、大阪大学 全体では約1万5千タイトル契約してい て、支払総額は数億円にのぼります。附属 図書館ではその契約や提供、管理を担って いますが、いくつかの問題を抱えていま す。紙媒体の雑誌と比べて契約内容や形態 が複雑になったため、契約情報を一元的に 管理し、共有することが難しくなっていま す。電子ジャーナルに関する情報は紙媒体 の雑誌と同じように扱うことができず、現 在の図書館業務システムでは完全には対応 できていません。また、利用条件が契約内 容によって決定されるため、その電子 ジャーナルを学外からでも利用することが できるか、文献複写を他大学に送ることが 可能か、学外者が利用できるか等の情報は 契約書類を詳しく見て把握しなければなり ません。さらに、他大学における電子 ジャーナルの契約状況が分かりづらいこと も大きな課題です。紙媒体の雑誌では、全 国の大学の所蔵状況を把握できる総合目録 データベースが存在するのですが、電子 ジャーナルではそのようなシステムがまだ 確立されていません。

このような問題は大阪大学だけのものではなく、全国の大学が抱えているものです。NIIではそれを解決するためにさまざまな取り組みを行ってきました。そのなかで、電子ジャーナルを含む電子資料に関して①利用者のアクセス環境の改善、②図書館における電子リソースの管理業務の標準化・効率化、③国内の契約情報の共有化の3つが大きな課題として浮かび上がりました。これらを解決するものとして、電子リソース管理データベース(以下、ERDB)の構築が急がれています。

3.FRDB

ERDBとはそれぞれのタイトル単位の情報と各大学図書館におけるアクセスの情報を扱う、その名の通り電子資料を管理するためのデータベースです。簡単に言うとどの電子ジャーナルが利用可能なのか、どこの大学が契約しているのか、ということを把握電子ジャーナルに関するデータのみを対象には電子ブックやデータベースなど、他の電子資料に関するデータも対象とする予定です。



4.プロジェクトの発足

ERDBの構築に向け、プロトタイプ構築プロジェクト(以下、プロジェクト)が2012年に発足しました。これは大学図書館とNIIの連携のもとに、電子資料に関するデータ共有のための基盤構築を行うものです。昨年のプロジェクトには全国から12の大学・機関が参加しました。大学の種類や規模も様々で、各大学における電子資料の管理方法もそれぞれ異なっていました。

私はプロジェクトでは研修生として、ほぼすべての業務に関わらせていただきました。NII、参加大学・機関、JUSTICE事務局とで5つのタスクチームを結成し、ERDBを利用した業務フローや、ERDBの

データ構造の検討、プロジェクトの今後の 方針決定などを行いました。また、プロ ジェクトのための情報収集として、イギリ スで行われたナレッジベースに関する国際 フォーラムに参加しました。他の国でも日 本と同じように電子資料の管理や情報共有 に多くの課題を抱えていて、それを解決す るためにいろいろな取り組みが進められて います。国によって目指すところは異なる かもしれませんが、世界的に共有できるナ レッジベースを自分たちの手で整備したい という思いは共通していました。将来的に はERDBのプロジェクトと海外のプロジェ クトとの間でデータを共有することが考え られているため、今後も海外調査や連携が 進められる予定です。

プロジェクトは2013年で2年目に入り、大阪大学を含む6大学が新たに参加して2014年度後半の試験運用開始に向け、さらに活発に動き始めています。今後はNIIが提供する論文や図書・雑誌のデータベースであるCiNiiとの連携も視野に入れ、紙媒体の雑誌と電子ジャーナルの情報を一元的に提供できる検索サービスの開発も考えられています。

5.研修を受講して

8か月間の実務研修を受講して、電子ジャーナルに関する基礎的、網羅的な知識を得ることができました。これらは2013年4月に雑誌担当に異動してから、日々の業務遂行において大いに活かすことができていると感じています。

NIIでは情報共有が徹底されていたので、 他の係がどのような業務を行っているの か、全体としてはどのような方向に向かっ ているのかを把握することができました。 そこで働く方々はほとんどが大学図書館か らの出向でしたが、所属大学のことだけで はなく、「日本の学術情報基盤をどうやっ て整備していくか」という国レベルの視点 に立って働いていました。普段仕事をして いるときには、つい自分の目の前のことだ けに追われてしまいがちですが、より大き な視点に立って物事や将来を考えることも 重要だと痛感しました。他大学の動向や国 内外の最新事情に興味を持ち、先進的な事 例があればそれを進んで取り入れるなど、 積極的に外に目を向けることで自館のサー ビス向上のために得られるものがあるので はないかと思いました。

大阪大学に戻って早5か月が経過しましたが、今回の研修で得たことを活かし、今後の図書館サービスをより良くしていくために努力していきたいと考えています。

ナレッジベース とは?

ナレッジベースとは、電子 ジャーナルの誌名やISSN、 URL、出版社、利用可能範 囲、パッケージに含まれるタ イトルなどの情報を収録して 最新の状態で保持している データベースのことです。つ まり、どのジャーナルが現在 どこのサイトから見られて**、** 何巻から何巻まで公開されて いる、といった情報を持つも のです。同じタイトルの電子 ジャーナルでも、複数のサイ トから提供され、利用可能範 囲やURLが異なることがよく あります。その場合は、それ ぞれ別のデータとしてナレッ ジベースに収録されます。

しかし、商用ナレッジベースはその大半が海外のたりで、日本の電子ジャーナルを対象としては収録数が少な言いというで、日本の電子の精度も高いとは同様を高いとは見かられた。そこでERDBフッでは日本の手にものでは日本の手間ができるとなって、構築部でではいます。さらに、、構発部に関いて、大利のではいるによって、大利のではいるによって、大利のではいるには、大利のではいるには、大利のでは、利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のいのは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のないは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のでは、大利のないは、は、は、大利のないは、大利

総合図書館の耐震改修工事を行います

2013年度から、総合図書館では

○棟および書庫棟の耐震・改修工事を実施することになりました。

○棟以外は耐震基準を充たしており、この工事によって、総合図書館全体が現行の耐震基準を充たした建物となります。共同利用スペースである図書館を安全・快適な空間とするため、利用者の皆さまにはご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

工事期間(予定) 2013年11月下旬~2014年6月半ば 工事箇所の利用再開は、2014年7月以降の予定です。

総合図書館C棟は1972年竣工で、すでに40年余り経過しています。また、総合図書館C棟に隣接している書庫棟(南棟)も、1981年竣工で、すでに30年余りが経っています。どちらも早急に耐震補強が必要な状態です。

今回は耐震性能の強化のみならず、C棟の3階には貴重コレクション室とマイクロ資料室を設置し、C棟の南側には書庫棟を新築する予定です。

教員著作 寄贈の紹介①

2013年3月~6月 受領分

中村征樹(全学教育)
・ポスト3・11の科学と政治
(ナカニシヤ出版, 2013)

Hans Martin Krämer (文)

 Neubeginn unter USamerikanischer Besatzung?
 (Akademie Verlag, 2006)

伊勢芳夫 (言)

「反抗者」の肖像 (溪水社, 2013)

菅原由美(言)

・オランダ植民地体制下ジャ ワにおける宗教運動 (大阪大学出版会, 2013)

石井正彦(文)

マルチメディア・コーパス 言語学 (大阪大学出版会, 2013)

深尾葉子(経)

• 魂の脱植民地化とは何か (青灯社, 2012)

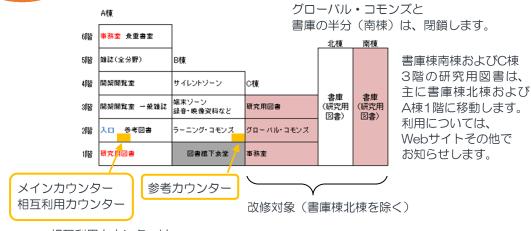
小方厚(産)

• 視て聴くドレミ (大阪大学出版会, 2013)

※敬称略、順不同

工事中

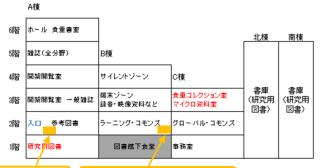
C棟1階の事務室は、A棟6階の図書館ホールに移動します。 そのため、図書館ホールはご利用いただけなくなります。



相互利用カウンターは、 メインカウンター横に移動します。

終了後

事務室はC棟1階に戻り、A棟6階図書館ホールの利用を再開します。



C棟3階に 貴重コレクション室と マイクロ資料室を 新しく設置します。

メインカウンター

参考・相互利用カウンター

相互利用カウンターは、B棟に戻ります。

グローバル・コモンズの利用再開は 2014年7月頃、書庫棟の利用再開は 2014年10月頃の予定です。

工事についてのお知らせや工事に伴うサービス内容の変更点などの情報は、 随時「かわらばん」や「図書館Webサイト」にてお知らせしていきます。

NEWS☆図書館からのお知らせ(2013.4~)

グローバル・コモンズが日経ニューオフィス賞を受賞

◆「第26回日経ニューオフィス賞」において、総合図書館グローバル・コモンズが近畿地区での「ラーニング・コモンズ賞」を受賞しました。日経ニューオフィス賞は、日本経済新聞社・ニューオフィス推進協会・近畿ニューオフィス賞実行委員会が共催。◆今回の受賞では、国際性と学びのスタイルの多様化というグローバル・コモンズのコンセプト、ならびに学生の皆さんや学内の他部署からの意見を設計に反映させたことなどが評価されたと考えています。耐震改修による一時閉鎖を挟みますが、今後も使いやすい場所となるよう努めていきます。

新入生オリエンテーション [総合図]

◆主に新入生を対象に「20分でわかる図書館利用の基礎」としてオリエンテーションを10回、ツアーを11回、4月前半に実施しました。オリエンテーションには610名、ツアーには330名の方にご参加いただきました。

留学生オリエンテーション [総合図] [外国図]

◆国際交流オフィス学生交流推進課、および日本語日本文化教育センターからの依頼を受けて、留学生オリエンテーションとツアーを実施しました。◆総合図書館では4月8日に、74名の短期留学生を対象に、英語による説明と館内ツアー、および日本語での見学ツアーを行いました。外国学図書館では4月9日に50名の学部留学生、6月20日に29名の短期留学生を対象として、英語による館内ツアーを行いました。

プレゼン入門 話す基本技術 講習会 [総合図]

◆「プレゼン入門 話す基本技術」(全4回)を5月に総合図書館で、1グループ開催しました。通常の授業期間での実施、そして、全4回としたのは今回が初めてです。◆附属図書館の久保山健専門職員が企画、講師を担当し、全学教育推進機構の堀一成准教授、坂尻彰宏准教授にご協力いただきました。発展編に当たる3~4回目では、ブレインストーミングの練習や、司会の要素の解説・実習も行いました。◆毎回お聞きしている有用度評価は、過去最高となった前回をさらに上回りました。今後もどうぞご参加ください。



レポートの書き方講座 [総合図]

- ◆主に学部1回生を対象とした、レポートの書き方の基礎を身に付けてもらうための講習会(全3回)を6~7月に、3クラス開催しました。本講習会は2010年度から、全学教育推進機構との共催で継続的に開催しているものです。
- ◆今回も同機構の堀一成准教授が内容を構成し、堀准教授・図書館職員・図書館TAが講師を担当しました。また、同機構の坂尻彰宏准教授にもご協力いただきました。のべ72名の方にご参加いただきました。



教員著作 寄贈の紹介②

岡本真理(言) ・ハンガリー語 (大阪大学出版会, 2013)

河森正人(人) ・東アジア新世紀 (大阪大学出版会, 2013)

近藤寿人(生) ・芸術と脳 (大阪大学出版会, 2013)

里内克己(言) ・水と光 (開文社出版, 2013)

谷口勢津夫(高等司法) ・租税法演習ノート 第3版 (弘文堂, 2013)

Wolfgang Schwentker (人)

- Die Samurai 2. Aufl. (Beck, 2004)
- Erinnerungskulturen (Fischer Taschenbuch Verlag, 2003)

平尾俊一(工) ・道化の構図 (ユリウス, 2012)

※敬称略、順不同

論文検索講習会(初心者向け、中級者向け)「総合図]

◆レポート作成で学術論文を上手に活用していただくことを目的に、初心者向け、および中級者向け の論文検索講習会を開催しています。大変好評なため、昨年度から毎月各1回開催しています。2013 年度は、7月時点でのべ33名の方にご参加いただきました。今後もどうぞご参加ください。

データベース連続講習会 「総合図] 「理工学図] 「外国図]

◆附属図書館が提供している各種データベースの講習会を4 月から6月にかけて、豊中・吹田・箕面の各地区で実施しま した。対象は SciFinder、SciVerse Scopus、Reaxys、 Web of Science, CNKI, MLA International Bibliography、ProQuest Research Library の各データベース。 外部講師を招いて、合わせて11回実施。のべ246名の方に ご参加いただきました。





- ◆総合図書館グローバル・コモンズで、図書館TAによる「グ ローバル・コモンズ カフェ」を6月に2回、開催しました。 計11名の参加者があり、活発な意見交換をされていました。
 - What are Chinese business up to in sub-Saharan Africa? (アフリカにおける中国の投資と貿易)」 (6月25日)

グローバル・コモンズ カフェ [総合図]



・いろいろな国の視点でニュースを読む日(6月27日)

るくすTAによるミニ講習会・イベント 「外国図〕

- ◆外国学図書館のるくす(ラーニング・コモンズ)で、図書館TAによるミニ講習会・イベントを開 催しました。TA各自の専門分野を活かした内容で、のべ80名の方にご参加いただきました。
 - ・文系学生のためのパワーポイントの作り方(4月23日)
 - ・効率良く点数を稼ぐコツ満載! 「中国語資格試験HSK対策講座」(5月10日)
 - ・体験型異文化シミュレーションゲーム 「Bafa'-Bafa'」ワークショップ(6月11日)
 - ・中国ネット言葉 ~辞書でひけない流行語~(6月12日)
 - これが重要! 教採対策 ~教育政策を読み解く~(6月17日)
 - ・ロシアアニメの巨匠 ユーリー・ノルシュテイン『話の話』(6月20日)
 - ・フィールドワーク超入門講座(7月4日)
 - ・中国の論文を読みたい人へ ~ CNKI利用基本操作講習~ (7月5日・12日・19日)
 - ・るくす大学院進学相談週間(7月8日~12日)

※敬称略、順不同

教員著作 寄贈の紹介③

ロボット・身体・テクノロ

(大阪大学出版会, 2013)

秋田茂(文), 桃木至朗(文)

グローバルヒストリーと帝 (大阪大学出版会, 2013)

はじめての新TOEICテスト いきなり600点が取れる本

「世紀転換期の日英におけ

る移動と衝突:諜報と教育を中心に」報告・論文集 (阪大比較文学会, 2013)

• 近代大阪の産業発展 (有斐閣, 2013)

吉富志津代(グロコル)

茶園成樹(高等司法)

(有斐閣, 2013)

• 知的財産法入門 (有斐閣, 2013)

グローバル社会のコミュニ

(大阪大学出版会, 2013)

(高橋書店, 2012)

橋本順光(文)

沢井実(経)

ティ防災

• 特許法

檜垣立哉(人)

シルバ寿子

アンケート:グローバル・コモンズ24時間開館

◆ 2012年度冬期のグローバル・コモンズ24時間開館について、2013年の2月に、Web、および 紙媒体にてアンケート調査を行いました。実施時期や利用形態、ご要望について参考になるご意見を 多数いただきました。ご協力いただき、ありがとうございました。◆詳細は図書館Webサイトで6月 21日付のお知らせに掲載しています。

グローバル・コモンズの24時間開館 [総合図]

◆総合図書館では、冬の試験期に続けて、7月4日~8月1日の平日深夜に24時間開館を試行しました。◆前回の実績やアンケート調査、試験日程を考慮し、時期を10日間ほど前倒ししました。座席も約70席の臨時追加。最も多い時で188名の学生が熱心に試験勉強に取り組んでいました。

大学教育学会 第35回大会で共同発表

◆6月2日、東北大学にて開催された大学教育学会 第35回大会において、堀一成准教授(全学教育推進機構)と久保山健専門職員(附属図書館)が共同発表を行いました。◆テーマは「コモンズスペースを利用した 教員・図書館職員・TA協働 ライティング指導」。教員・職員・TAの協働というユニークなライティング指導について、事例紹介するとともに、協働のあり方について報告しました。◆同



機構と当館では2010年からこのような学習支援企画を実施しています。現在では、職員やTAも講師を担当することに加え、職員が独自に企画したプレゼン講習を実施するなど、種類や回数を充実させるよう取り組んでいます。

授業「文化資源学入門」で図書館職員が講師を一部担当

◆本学のコミュニケーションデザイン科目(知のジムナスティックス科目)「文化資源学入門」で、図書館職員が7月前半の2コマに渡って講師を担当しました。◆担当教員の合山林太郎講師(コミュニケーションデザイン・センター)の依頼によるものです。附属図書館の概要や、書誌システムの管理・運営方法、電子学術資源への対応、そして、ラーニング・コモンズを巡る図書館の最新事情について取り上げました。◆講師は佐藤久美子室長補佐・堀田祐子職員・日高正太郎職員が担当。総合図書館ラーニング・コモンズで実施しました。



スイスの図書館職員の研修受入



- ◆スイス比較法研究所(Institut Suisse de droit comparé)図書館に勤務する図書館職員の日本での図書館研修のうち3日間(7月15日~17日)を大阪大学で受け入れしました。
- ◆業務の説明や実習だけでなく、情報交換としてそれぞれの 図書館の取り組みの紹介や意見交換なども行いました。すべ て英語での対応となり、本学の図書館職員にも良い勉強・経 験となりました。

サークルオリエンテーションでの図書展示(ショセキカ)に協力

◆本の出版企画に挑戦する「ショセキカ」が4月6日に実施した本の展示企画に、附属図書館からも本の貸出という形で協力しました。サークルオリエンテーションに合わせて行われました。◆テーマは「新入生に読んでほしい本」。図書館からは約40冊、いくつかの推薦文を提供。ステューデント・コモンズ開放型セミナー室にて。展示している本を手に話の輪ができたり、在学生と新入生の交流も見られました。



教員著作 寄贈の紹介④

吉野勝美(名誉教授) ・古い大学講義ノート 第2版 (コロナ社, 2013)

Harvey Paul (Stean Anthony)(文) • Great China 1, 2 (Yamaguchi Shoten,

2011-2012)

- Songs 365 2nd ed. (Yamaguchi Shoten, 2013)
- Saint Mary 365
 (Yamaguchi Shoten, 2012)
- Sufisongs (Yamaguchi Shoten, 2012)
- Pashsongs (Yamaguchi Shoten, 2012)
- Kŏngzĭ 136
 (Yamaguchi Shoten, 2012)
- Hagios Paulos
 (Yamaguchi Shoten, 2012)

※敬称略、順不同

生協豊中書籍ショップに図書館お勧め本



◆生協豊中書籍ショップに図書館からのお勧め本コーナーが4月から5月にかけて設置されました。共通教育科目「情報活用基礎」の中で紹介した「レポートを書くための本」です。◆また、4月6日に「ショセキカ」プロジェクトが実施した展示企画「新入生に読んでほしい本」のコーナーも設置され、その中で図書館からのお勧め本も紹介されました。

教員著作 寄贈の紹介⑤

飯田哲也(微) ・腸炎ビブリオ (近代出版, 2013)

菅沼克昭(産) ・鉛フリーはんだ付け入門 (大阪大学出版会, 2013)

野島博(微) ・遺伝子工学 (東京化学同人, 2013)

※敬称略、順不同

いちょう祭参加報告

◆2013年度のいちょう祭の期間中(5月2日~3日)、総合図書館では施設を開放し、館内ツアーおよび図書展示を行いました。今年は附属図書館の各館から蔵書資料紹介を兼ねて1テーマずつ、各館の特色が出た展示となりました。

---各館の展示テーマ---

【総合図書館】天文の世界へ、ようこそ

【生命科学図書館】阪大anatomica

【理工学図書館】ノーベル賞の世界

【外国学図書館】世界に広がる

「Le Petit Prince(星の王子さま)」

◆展示ケースは使わず、ケース前に机を出して展示したので、実際に手に取ってみたり、興味深げにページをめくる姿が見られました。◆また、図書館職員による館内ツアーでは、昨秋に新しく開設したグローバル・コモンズを中心に案内し、好評でした。



各館図書展示

- ◆初めてのレポート [総合図] (昨年~)
- ◆学生選書で購入した本 [総合図] (2月~)
- ◆フェスティバルホール [理工学図](3月~5月)
- ◆「ショセキカ」新入生にお勧めする本 [総合図](4月~)
- ◆プレゼンのチカラ 阪大 SpeakOut×図書館 [総合図](4月~)
- ◆世界に広がる「Le Petit Prince(星の王子さま)」[外国図](4月)
- ◆理工学図書館員のイチ押し本 [理工学図](5月~7月)
- ◆第33回「14冊の本棚」:村上春樹を読む/で読む 14冊」[外国図](5月~6月)
- ◆「闘病記」をよむ [生命図] (6月~7月)
- ◆この夏休み、海賊になるには [理工学図] (7月~)
- ◆大学院に関する図書 [外国図] (7月)
- ◆第34回「14冊の本棚」:読むのが先か、観るのが先か、 映画になった14冊+α[外国図](7月~8月)
- ◆本と本とのつながりを求めて [外国図] (7月~8月)
- ◆人体は美しいか 解剖図と絵画から見る身体観 [生命図] (8月~9月)



VOL.47 NO.1 通巻183号 2013年8月31日 発行 編集:大阪大学附属図書館 担当:久保山健、岡田綾子、小松涼子、 六車彩都子、由利江里子、岸本まどか 住所:大阪府豊中市待兼山町1-4 WEB:http://www.library.osaka-u.ac.jp/ E-mail:kohowg@library.osaka-u.ac.jp/

twitter:@OsakaUnivLib